

街歩きヒストリア



原民喜が野宿した石崖が、バックに見えています。

原爆65周年追悼碑（広島東照宮内）

二葉の里

広島市幟町で被爆した作家・詩人の原民喜（1905～1951）。彼はあの日、縮景園まで移動して川を渡り、広島東照宮に避難。境内の石崖下で野宿しながら手帳に惨状を記録し、それを基に小説「夏の花」を著しました。

この追悼碑は、民喜が文学に残した思いを後世に伝えるため、被爆65年の2010年に広島東照宮前宮司が中心となり建立。碑には「コハ今後生キノビテコノ有様ヲツタヘヨト天ノ命ナランカ」と民喜の手帳の一節が刻まれ、作品の一部を記したプレートも付されています。

原民喜は今年没後70年。しかしその言葉は今なお心に響き、平和への思いを新たにさせられます。

（文・片山典子さん）

③2

中央公民館エリア（白島、基町、幟町）の街の魅力を歴史とともに紹介するコラム「街歩きヒストリア」。公募で集まった制作スタッフが編集します。

広島東照宮
原爆65周年追悼碑

